

セラミックアーティスト

# 田中哲也

# 陶芸家が表す現代アート

滋賀県で生まれ、工房・自宅ギャラリーを野洲市内に構える陶芸家・田中哲也さん。

陶と金属を合わせた独自の作風で、国内はもとより海外でも活躍しています。作陶に対する姿勢と作品の魅力に迫ります。

## 形のないものを盛る器

大学で経営学を学び、卒業後は広告会社に勤めていた田中哲也さん。「一生サラリーマンを続けると、自分でも思っていた」と話します。美術の勉強は会社の倒産をきっかけに始めました。自分の手で直接触れて制作できる分野に興味をわき、陶芸の道へ足を踏み入れます。

金属のような質感に焼きあがる釉薬と出会い、主に陶とポルトやナットなどを合わせたシリーズを展開。野洲図

書館のエントランスで、田中さんの作品「空(QOO)―近未来ノスタルジー」を目にした人も多いのではないのでしょうか。

近年は見えないもの、形のないものを盛る作品を「アートとしての器」と題して模索しています。2010年、音を盛る器「響器(HIBIKI)」を制作しました。陶とマイク、スピーカー、センサーで、室内にいながら屋外の音が耳元に飛び込んでくる作品です。

2012年には、「輝器(KAGAYI)

## 自由な楽しみ方をして

古い飛行機のようにも、繭や種のように生命力を秘めた形にもみえる田中さんの作品。特に何かを象徴して形を作っているのではなく、タイトルも作品が完成してからつけています。

「これまででない新しいものを」という意識で続けてきましたが、思いがけず「懐かしい」という感想を多く耳にしました。そこで自身の作品が、子どもの頃に空想をしてはノートに描いていた形に似ていることに気づきます。「空(QOO)―近未来ノスタルジー」というタイトルは、そのことを反映したものです。

フォームや質感が少年の心をくすぐるのか、男性ファンが多いそう。子どもにも大人気で「展示作品に触ったり、

中にはよじ登る子もいて大変です」と苦笑します。

現代アートは理解が難しいものだと思うわがちです。しかし田中さんは「自分なりの制作コンセプトはありますが、観る人がそれぞれストーリーを作って、違う場所へたどり着いても構わないと思っています」と、自由な楽しみ方をすすめます。

美しい対称形を作り出すために、作品と対峙する時間は必ずと長くなりま。陶芸家として施す、ろくろ成形という伝統工芸の技術と、丁寧な手仕事が生み出す現代アート。今日までのアートとクラフトの枠組みや価値観を超えた理想形を目指し、今日も田中さんは作陶に励みます。

## 地元を片足を置いた活動を

田中さんは個展やグループ展の傍ら、「越後・妻有アートトリエンナーレ」や「神戸ビエンナーレ」などのアートイベントにも出展しています。ニューヨーク、クロアチア、オーストリア、韓国など海外での展示も精力的に行ってきました。中でも、地元で行われる「BIWAKOビエンナーレ」の開催には特別な思い入れがあります。

9月から開催されるBIWAKOビエンナーレには、2007年の初参加以降、毎年出展。今回も参加予定です。「搬入搬出、展示作業のほとんどを作家で行わなければならない、苦勞も多ありますが、ホームでの活動だからこそ大切にしたい」と田中さん。そこでしかできない表現を、との考えから、場所をみて制作にあたるようにしてい

陶と金属を合わせた作品。どこか懐かしいようなイメージが漂う



左/納屋を改造した工房で作陶に打ち込む田中さん 下/陶土には信楽産の土を使用、磁土には瀬戸市の土を使用しています

INFORMATION

第8回 信楽 作家市

日時/5月2日(金)~5日(月・祝) 9時~17時  
会場/陶芸の森 太陽の広場  
陶芸を中心にクラフト系のブースが並ぶ作家市  
田中さんも出展します

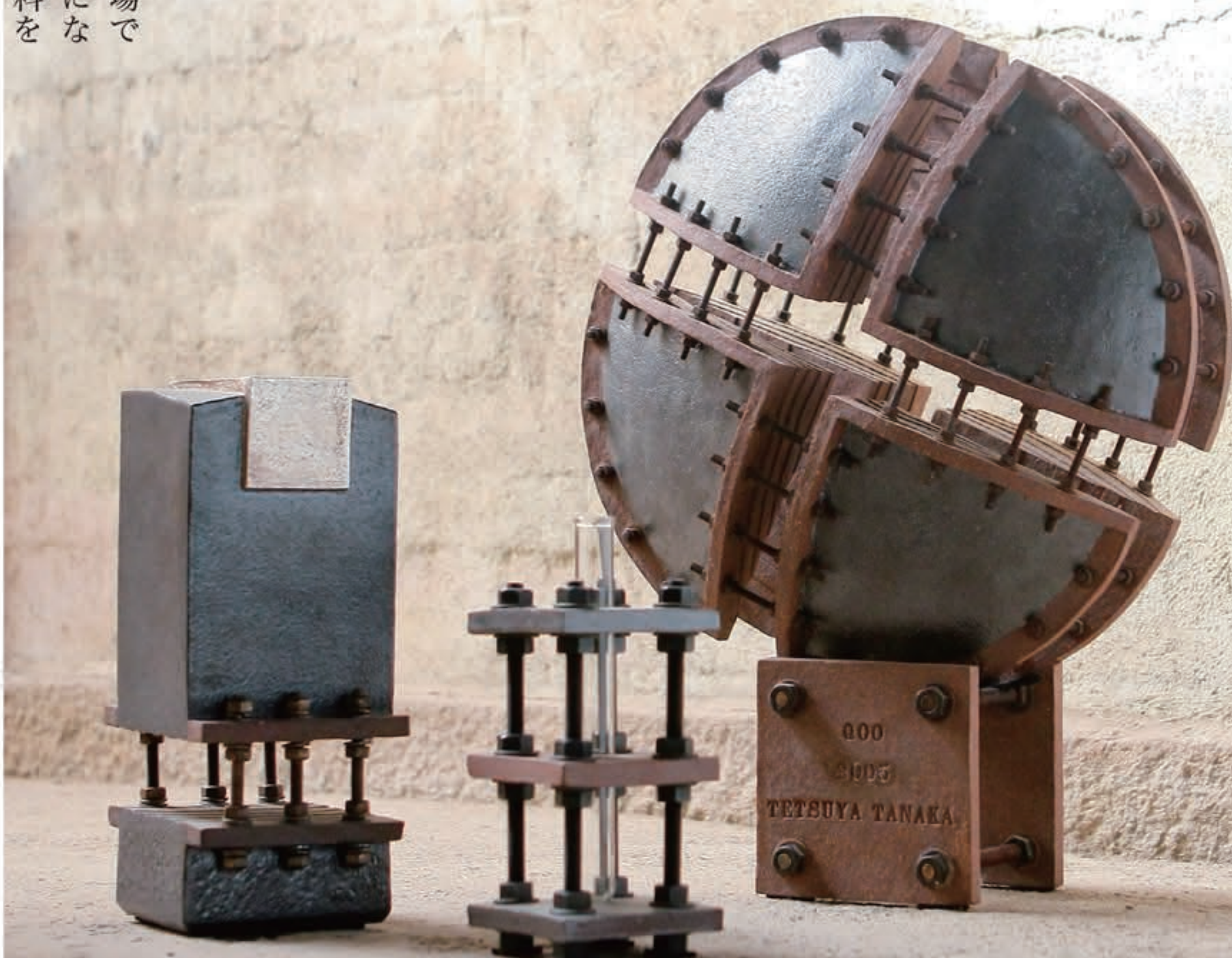
---

BIWAKOビエンナーレ2014  
泡沫~UTAKATA

会期/9月13日(土)~11月9日(日) ※木曜休み  
会場/近江八幡市、大津市

ます。初めて参加した年は民家の2階を会場に選び、現場を下見して自然光での展示に決定。作品を景色の一つとしてじっくり楽しんでもらえるよう、オリジナルの茶道具を作って「お茶会ワークショップ」を開きました。「BIWAKOビエンナーレには、『もう飽きた』と言われるくらい出展したいです」と冗談を交じりにも、地元の活動に対するこだわりをうかがわせま。また、滋賀県内の小学校で、陶芸体験のサポートを担当。そのほか月に2回、自宅工房で陶芸教室を開いています。昨年は「兵主大社ライトアップ2013」に「輝器」を出展し、兵主大社氏子参集殿で個展を開催。2018年の兵主大社遷宮は、作品を奉納します。

「陶芸は日本のお家芸。海外でも、驚きをもって迎えられることが多くあります。地元を片足を置いて、もう片足は他地域や海外での活動に向けたたいです」とこれからの展望を話します。



セラミックアーティスト  
田中哲也  
Tetsuya Tanaka

この地域では、野洲図書館のほか、滋賀農業公園ブルーメの丘(日野町)、かわらミュージアム(近江八幡市)でも田中さんの作品をみることができます



輝器  
KAGAYAKI

器をそばに置いておきたいと思ってもらえるようなものを制作したいと田中さん。石膏型に柔らかな土を流しこむ泥漿鑄込み法で作られており、和洋問わず料理に合わせやすいプレーンな器です



響器  
HIBIKI

2010年、BIWAKOビエンナーレの展示。聴覚が急に広がったような覚醒感覚を疑似体験させ、観る者を非日常に誘います

茶器  
CHAKI

2007年、BIWAKOビエンナーレ「お茶会ワークショップ」で使用された茶道具